

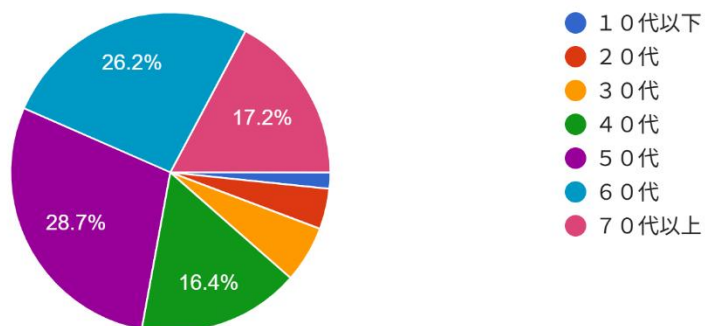
映画『ハッピー☆エンド』上映会と萬田緑平先生のお話し会(2026.7.4)アンケート結果

一般社団法人未来社会推進機構

2026.7.15

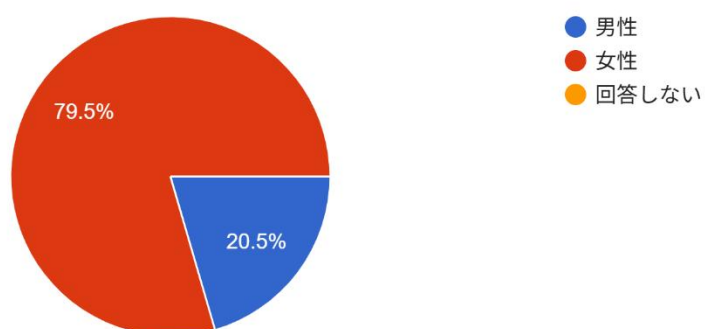
1 年代を教えてください

122 件の回答



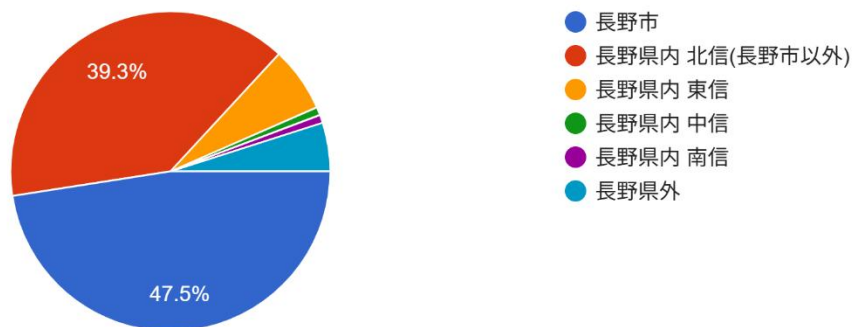
2 性別を教えてください

122 件の回答



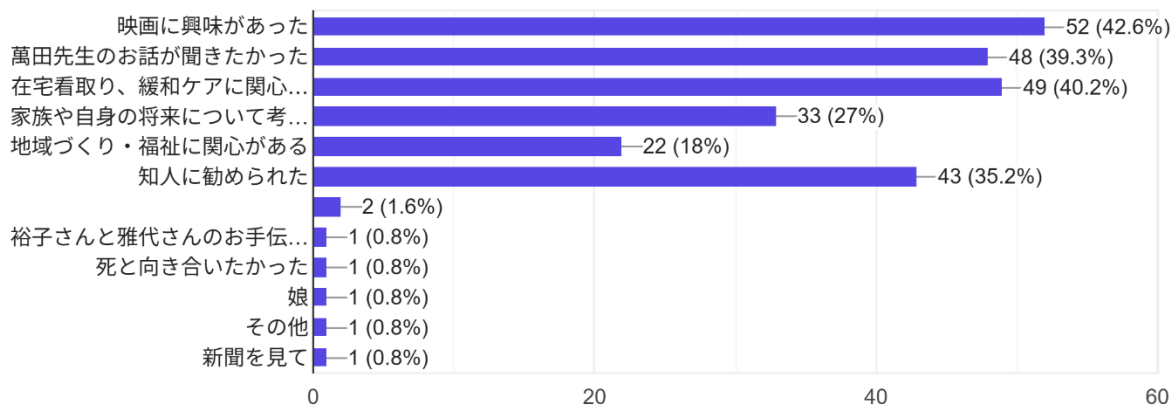
3 お住まいの地域を教えてください

122 件の回答



4 本日のイベントに参加された理由を教えてください（複数回答可）

122 件の回答



5 ご自身は、人生の最期をどこで迎えたいと思いますか。（1つ選択）

122 件の回答



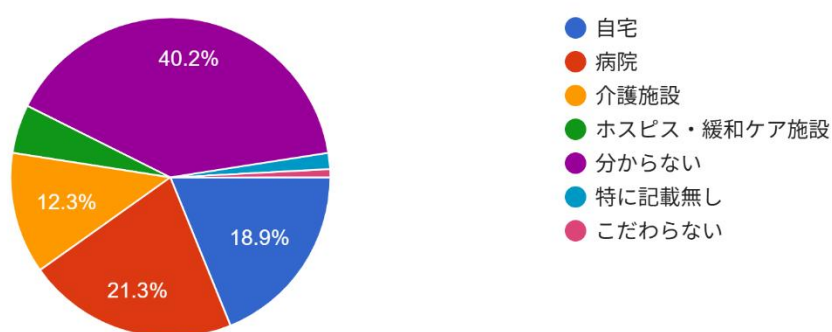
6 ご家族が人生の最期を迎える場合、どこで看取ることが望ましいと思いますか。(1つ選択)

122 件の回答



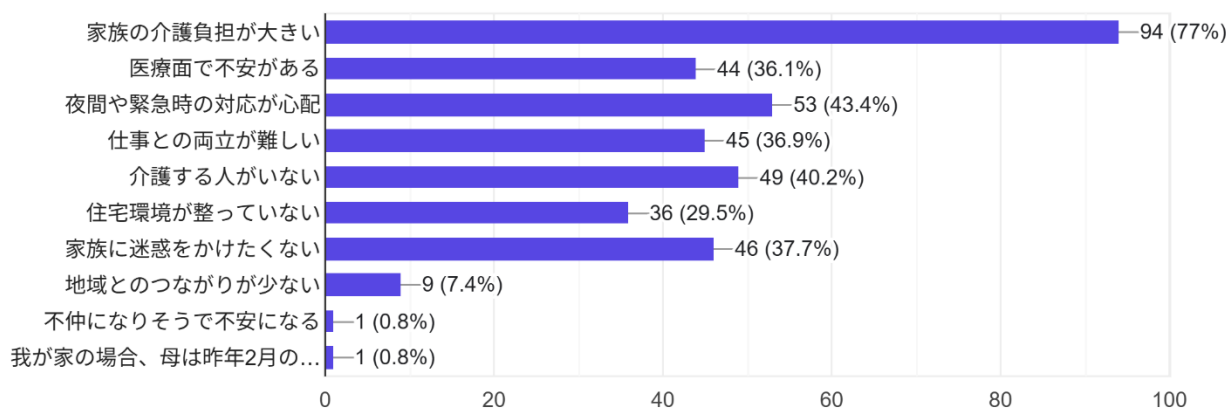
7 実際には、自分や家族の最期はどこで迎えることになると思いますか。(1つ選択)

122 件の回答



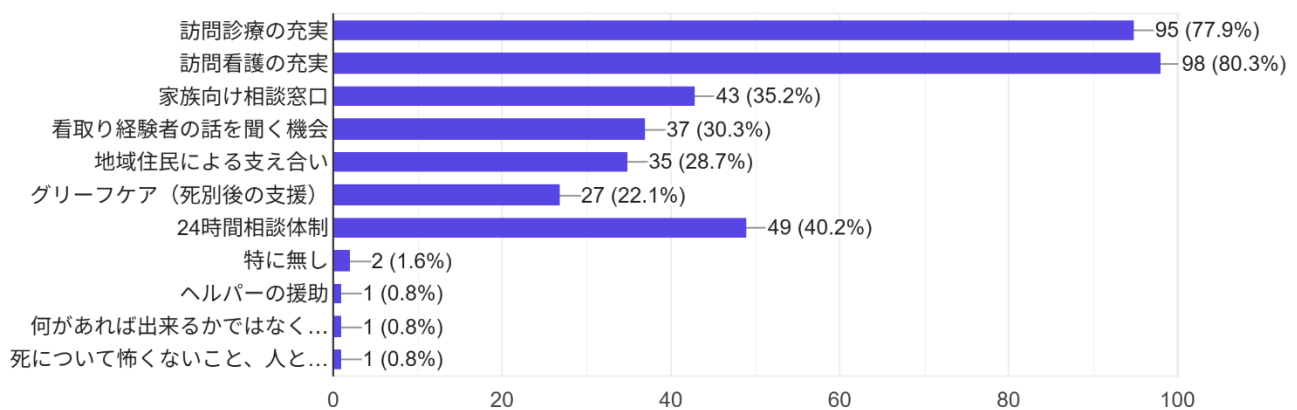
8 自宅での看取りが難しいと言われていますが、そう感じる理由は何ですか。(複数回答可)

122 件の回答



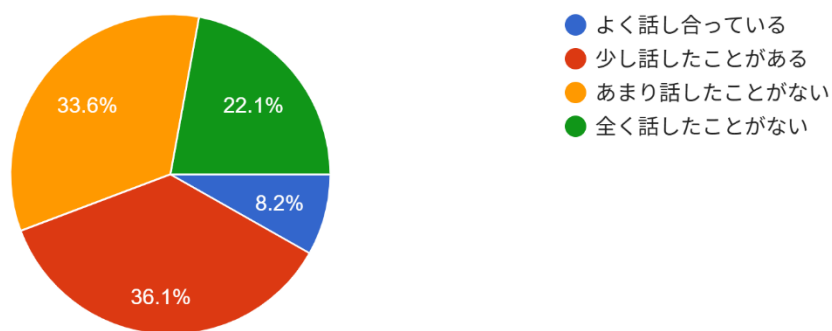
9 どのような支援があれば、自宅での看取りが可能になると思いますか。(複数回答可)

122 件の回答



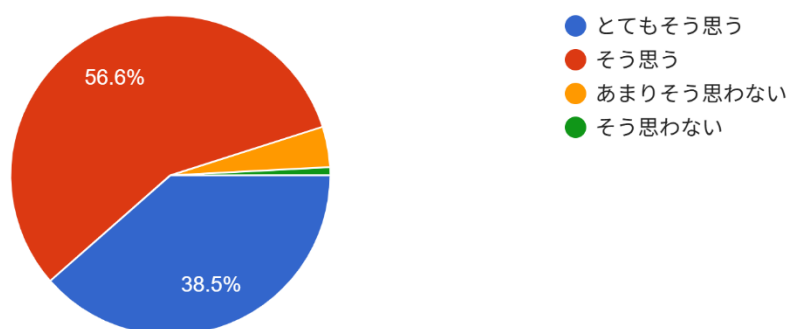
10 死や看取りについて、ご家族と話し合ったことがありますか。

122 件の回答



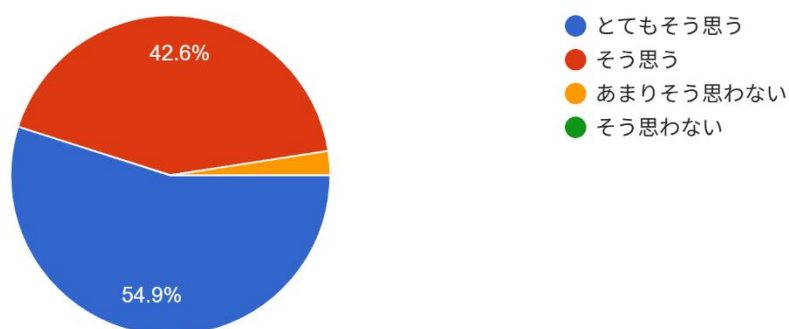
11 本日の映画・講演を通じて、自分や家族の最期について話し合ってみたいと思いましたか。

122 件の回答



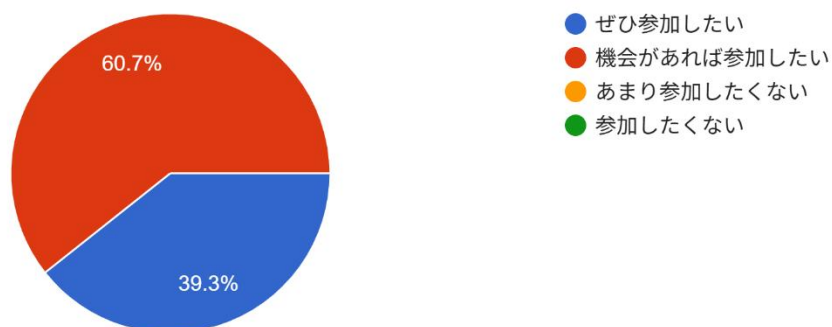
12 地域の中に、看取りや死について安心して語り合える場が必要だと思いますか。

122 件の回答



13 今後も、このような学びや対話の場に参加したいと思いますか。

122 件の回答



14 本日の感想や、地域に必要なと思う看取り支援についてご自由にお書きください。

78 件の回答

死は生きることのフィナーレ。どう生きるか、どう生きたかのさいご エンディング ステキな時間にして、みんなで祝福したいな。ガンの方が多かったけれど、ガンじゃなくても、こんな時間を過ごすのかな？ 登場した方は、一部の成功者なのかな？ おじいちゃんの葬式はステキに出来たけれど、その前の時間、もう少しできること、したかったこと、あるなあ。

仕事で 24 時間介護をしています もし、看取りになったら、、、と、たまに考えました

私の住む近所の方も、ひっそりと亡くなり、特に手伝うこともなく、手伝いを求められることもなく、お分かれの機会もありませんでした。家族だけで抱えず、地域で助けあって、看取りができる環境があればと思っています。

たくさんの死と別れを見せてもらい、私もありがとうと言おうと思いました。

本日は本当にありがとうございました。83才元気ですが少しずつ弱まっていくことが胸にしみました。最後まで、元気でゆっくりありがとうを何回も何回も伝えて。

義母の介護をしている私にとって、理想と現実のギャップがあり、悩ましい課題であると捉えています。最後はお互いがあるがとうと言える仲でありたいと思います。

そもそも、緩和ケアや見取りケアについての基礎知識と基本的な医療リテラシーが日本人は低いので、見取りに限らず専門職から医療と介護について話す場所が必要と思います。

死は日常なんですね。夫の看取りしてくださった先生も萬田先生のような先生でした。幸せな最後を送ることができたと感謝しています。私も最後はこんな萬田先生みたいな先生にめぐりあいたい。今日はいい日でした。

夫が通勤直後になくなり、遠方の施設入所の実母とコロナ禍での入院の義母、3人の看取りは悔いが残る形になりました。自分の死について、身近に考えるようになり、事ある毎に自分の考えを伝えています。ありがとうを伝えて、できれば家族に囲まれて逝きたいと思います。1人での生活、この家で、笑顔で自由に楽しく、最後までと思います。

気軽に話ができる場を作る、話題にして行きたいと

必ずしも入院すること、抗がん剤治療をすることが健康になることではないと感じました。

大事なことに気づかされました。今日の映画とても良かったです。

萬田先生の本を読み(6月)、それでぜひ参加したいと申し込みました。今日は、若いお母さんさんが大勢で驚きました。よいことですね。私は、92才まで歩いて行きます。

萬田先生のお話を聞きたかったなので、この機会する。ホスピスで働いていますが、なかなか昔の方が温かったなという現実です。これからこんな看取りができるようになるといいなと思います。

看取りに対するハードルが下がりました。あと、痛みに対する不安も無くなりました。今まで私に死を見せてくれた人達やわんに、改めて感謝の気持ちです。そして、この感謝を繋いでいきたいと思いました。

私は今、92才の義母の介護をしています。最近、痴呆も少し入ってきて、食べることが上手く出来なくなっています。今日の映画を拝見させていただき、死生観というもの。生命時間より質を大切に。本当に勉強になりました。義母と楽しく暮らしていきたいと思います。

死は生と同じで常に身近にあるのだ、それを、日常と呼ぶのだと思えた。いつのときでも、誰に対しても最後の最後まで笑っていたいし、ありがとうと伝えていきたい。

人生のゴール。本人に笑っている時間が大切だと思います。半年前 99 才の祖母。余命10日で在宅。それから、5年生きました。在宅はすごい力です。在宅で5年、最後は HP で3日。自宅で最後という気持ちはありました。HP、ヘルパーさん、介護の手助けで、やりきることができました。看取りのハードルは本人が自宅、しかし、家族の協力が無いと HP の協力。そのことが大事とすごく思います。祖母は死ぬ 1 週間前にひ孫に、こうやって人は死んでいく。それを見なさい。そんな人がいたらやさしくしてねりその言葉が忘れずにいれます。

地域のつながり、自分らしさ

24時間相談体制 在宅医療 地域の相談システム

ハッピーエンドで終わるためには、訪問診療、看護、ヘルパーとか、体制の充実が重要だと思います。

今の日本でソフトランディングがいかに難しいか、改めて感じました。

心が先の治療に心が温まり、感動でした。ありがとうございました。

死んでもオツケーなシェアハウスがほしい

面倒を見てもらうと迷惑をかけるという考えが根深くて、病院や施設に本人が入りたいと望んでしまう大きな流れが有ると感じています。自分の祖父母と舅を見送りましたが、全員が同じことを言いました。自分の人生を全うするという思考をすることすらせずに旅立ってしまう人が多い様に感じているので、死はフリースタイルで自分らしい最期とは？を、気軽にシェアできる場が有れば良いなと思いました。知らずに通り過ぎるのと、知っていて選ばないのでは、同じやらないという行動をとるにしても、全然意味が違います。自分は、死に向かう時期に入った時に生前葬をやりたいと思っているので、まだまだ元気うちに今日のことを含めて色々なことを考えて感じていこうと思いました。自宅で看取って貰うのが良い訳ではなく、こういう事もあるのだと、自分の中の引き出しが増えた感覚です。

自分自身及び家族の最期が介護施設になると思うのは、日本の現状がそれしか無理と思っているかである。ハッピーエンドを見て、いい最期は他人のことでよかったなと思うが、それまでに人間関係いるんですよね。本日はガンの緩和ケアのお話でした。同じ週末でも、認知症の人は違います。その違いを家族が理解できるかなと思いました。

訪問看護休日が1週間ほどあれば、旅立つ日がしっかりわかる。緩和ケアの充実。

どう死にたいか考えるきっかけになった。ありがとうございました。

ありがとうございました。とても、考えさせられました。

先日、義父を亡くしたばかりです。その前に、私自身の両親を亡くした際は、立ち会えなかった後悔がずっと残っていました。夫は、義父が息を引き取る前に、間に合った様で良かったです。でも、本当は、両親を看取る時に在宅でいたかったなと思いました。皆さん、映画の方たち、良いお顔されていたのが、印象的でした。最後の「笑えばv」とっても良かったです。泣かされました。

約20年前、父を看取りました。ガンの終末期、毎日ホスピスで昼間を過ごし、夜は私の送迎で自宅で過ごしました。最後は自宅で看取りことができ、父の希望に沿ったホスピスの皆さんに感謝でした。

途中の休憩でタイツ被ってる人いるなと思ったら、先生だったのか(笑) 笑をありがとう。

家で看取することは、いろんなサービスを使いながらできることをみんなに知ってほしい。本人、家族が安心して？死期を迎えられる、後悔が少なくできる、本人にさよならを言える。心、気持ちでこんなに安らかにいけるんだと教えてもらった。理想だと思う。もっと早く萬田先生に会っていたら、母を後悔なく送れたのにと後悔してしまう。萬田先生に会うのは2回目で、ハッピーエンドも映画館で観させてもらい、本当にすごい先生だと思います。介護の仕事をしているので、看取りケアの時に役立てたいです。

本日はありがとうございました。期待以上の感動があり、痛みを伴うがん患者になったら萬田先生に診て欲しいとも思いました(長野県よりもずっと遠いので無理でしょうが)

色んな選択肢がある事を皆が知る所からスタートだと思う。また、緩和ケアと言っても萬田先生のようなドクターが沢山居る訳でもなく、もしかしたら医療従事者にも知らない方が多いのでは？とも思う。そして現在地位や名誉等に目が向き、患者ファーストとは懸け離れたドクターが多く感じられ残念。もっと映画や講演会を通して知ってもらう活動の必要性を感じた。

ご家族に見送られながら逝く皆さんの笑顔が本当に素敵でした。家族や子ども孫たちに、大切なものを手渡せたという幸せな気持ちが伝って来ました。人はみな100%死んでいくという当たり前の日常と、どんな形にするのか、それは自分で決めて良いのだと何だか温かく自由な気持ちになりました。一日一日を大切に愛おしく思いながら、周りには家族、友人、ペットと喜びを分かち合って、最期まで生きていきたいと思いました。

父にこんな最後を迎えさせてあげたかった 家族は間に合わず父は一人病院で逝ってしまいました 自分は家族とは遠く離れた地で暮らしているので「ありがとう」も言えずでした まだまだ元気な母ですが「少しずつ」なんですよ きょうだいと話をしなくては行けないと改めて思いました ありがとうございました

参加して良かったと心から思いました。命に向き合う貴重な時間になりました。

病院も緊急の方も楽になります。死を受け入れる人が増えて、心が満足できればいいですね。病院に運んで帰ってくるから、呼ばなくても看取りができたり、警察を呼ばなくてもいいようにしたら良いと思います。リビングウィルを書いておけばいいのかな。死も診断書の延長の話は良かったです。

在宅の看取りを考えた場合、介護者が負担になった時、入院させてくれる体制があるといい。在宅で死にたいと決意したら、それが実現するかもと、映画を見て感じました。支えてくれる医療従事者（医師、看護師、ケアマネ）

とても大事なことを教わりました。来て良かったです。自宅で看取る事は怖くない、素敵な事だという事を知ってもらいたいと思いました。私は地区の公民館役員をしていますが、年に一回人権男女参画の勉強会を開催していますので、ぜひテーマとして取り上げたいと思いました。また、難病（ALS）の方訪問介護を仕事としており既に胃ろう、人工呼吸器はつけているので少し自然ではないかもしれませんが、ご自身の人生を堪能したとおもって分もらえるように楽しく過ごしたいとも思いました。

最後にありがとうという事は、大切だなと思いました。最後まで幸せでいてほしいと思いました。最後には笑って見送りたいと思います。

リビングウィル 書面に書いたり、家族と話してみたい。自宅で最後を迎えたい。ハンカチ必要でした。ありがとう、大切な言葉ですね。

当たり前になるといいな。

数年前に須崎市で萬田先生の講演を聞く機会があり、初めて聞くお話に 大変感銘を受けました。2年前に母を亡くしましたが、萬田先生のお話にもありました『ありがとう』を伝えることができ、後悔ない見送りができました。私は医療従事者ではありませんが、お医者様、ケースワーカーさん、訪問看護師さん達のお陰で、母の希望を叶えてあげることができました。医療従事者ではない私にも、何かできることがあると感じて、有意義な時間でした。主催者とスタッフの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

今現在健康で先の事はわからない。年齢的に主人が先に逝くと思うので、自分で看取りたいとは常に思っているが逆になった場合は迷惑かけずに逝けたらと思う。感謝の気持ちを言葉に出す事はとても良い事なんだと感じました。実父母、義父母等を病院や施設で最期を迎えさせてしまったがその時はそれが精一杯のやり方だったと思う。改めてキチンと考えて人生を締めくくりたい。

隣に住む義両親が弱ってきて、漠然と不安を感じていましたが、とにかく本人が幸せでいてくれることが大切なんだと今後の心持が定まった感じです。息子たちと夫とも話をしたいと思います。

家族や知人にも見て欲しいと思いました。亡くなる数時間前まで会話ができて、感謝を伝え合える家族関係が素敵だと思いました。地域の中で繋がりが希薄になりつつある現代で、家族に頼れない、いない人が最期まで幸せに生きるにはどうしたらいいか課題だと思いました。看取りや死を大変なものとしないうえに考えが広がると良いと思いました。ハッピーエンドの映画が多くの方に観てもらえますように。

ケアマネをやってます。看取りの際、本人のリビングケアを大切にと思っています。家族の意志が延命、特に点滴だけでもと望まれ、腹水が溜まって負担になっているケースを2度ほど見てきました。とても素敵な学びの場をありがとうございました。

とても、良い機会でした。ありがとうございます。

訪問看護と訪問介護が遠慮せずにお願ひできるとありがたいです。苦痛(ガンでない病気)を緩和できるドクターが在宅で地域医療して欲しい。

本人らしい最期を送るって何だろととても考えさせられました。麻薬を使うのが嫌で、痛みを我慢している在宅の患者さんと関わりがあるのですが、痛みさえ抑えれば、普通に生活できることもある。ゴルフや旅行とかできる人もいます。怖いものではないということを知って欲しいなと思いました。笑いが一番の薬だと聞いたことがあるけど、映画を見て本当にそうだと納得しました。私も死ぬ時に、笑って過ごしたいと思いました。家族も皆んな。素敵な映画とご講演をありがとうございました。

上映会ありがとうございました。訪問診療や訪問看護の充実、気軽に相談できる場所や人があるといいと思います。死が非日常になっているというのは本当にその通りで、日常にしたいという樹木希林さんの言葉が印象に残りました。存在にありがとうという言葉が良かったです。

20年間、訪問看護の仕事をして、今は退職していますが、また仕事をしたいくなりました。

家族がいない人には難しいなと思いました。

看取り対象の方の症状によって、支援は無限です。医療、介護、地域、家族、また窓口を整えていただき、相談しやすい環境をお願いしたい。

良くも悪くも人とのつながりがいらなくなってきた現代で生きるすばらしさも、死ぬことの美しさも感じないまま、血縁からのバトンも受け入れないまま、一生を終えていくのがもったいないと感じます。自分に何ができるか、死に寄り添うことでどんなチームを組みたいか、よくよく考えるきっかけになりました。

長野県はインフラ上、訪問看護、訪問診療などの支援が困難な場所も多く、また人手も少ないと感じています。地域住民同士のサポートの一環としてそえる手などの事業が拡大していくといいなと思います。

もともと終末期医療に興味があり、看護師として働いておりました。映画や先生のお話を聞きながら、これまで病院の中で関わった患者さんや、在宅移行の退院を見送った患者さんを思い出しました。その際の家族との関わりや、声掛けなどを振り返り、病院の中での限界を改めて気づくことができました。私は今の医療体制に違和感を感じており、先月看護師を退職したタイミングです。海外の医療現場などを見てみて、また違った視点から医療のあり方を考えてみたいと思っています。

自分自身の最後はあまり考えた事がなかったけれど、今回の映画を見ながら、よくよく考えてみました。できる事なら、やはり家で最後を迎えられたら最高です。

準備が不十分で驚きでした。残念に思います。

やっぱり情報が足りない。看取り。長野には萬田先生のような先生はいないのでしょうか。
在宅では、病気のケアよりも心のケア。歩いているうちは生きられる。心に響くフレーズが沢山ありました。
BGMに泣けました。

93才の夫の介護中です。歩いて食べられて話もでき、パチンコ店にスロットをやりに時々行きます。この頃は、行く回数も流石に減ってきましたが、好きなこと最後までやらせてあげます。世の中変える活動、年金者運動、もの書き、俳句と頑張った人生だったので、後は好きなだけ気の済むように看ます。ありがとうございました。

特にありません。

映画を視聴して自分らしく生きる(死ぬ)とはどういうことなのか考えさせられました。点滴していない人たちの最後は悲しくも幸せだったと思いました。自分もそのような死に方をしたいと思いました。心の状態がよいこと、歩けること、生きている目安だと教えていただきました。最後を迎える時に、ありがたい感謝の気持ちを伝えることの大切さを学ばされました。

独居の方が増えている現在、地域の中で民生委員が活動されているのですが、何か協力出来ることがあればと意見を出したのですが、プライバシーの問題が有るのでオープンにできないと言われました。地域内の活動も(昼食会、おしゃべりサロン)自力で出席できない人こそ、何らかの支援をして参加してもらいたいと思うのですが、解決の手段はないのでしょうか。

樹木希林さんの言葉が良かったです。

まずは、病院での情報提供が大切かと、緩和ケアについても知識があることが大事だなと思いました。

啓蒙活動 抗がん剤のデメリットについてもきちんと伝える先生、ありがとうございました。

看取りという場面を今日観させていただき、両親(もう数10年前に他界)の時に、こんな風なお別れをしたかったと思いました。死は敗北ではなく、人生のエンドだと、私も精一杯生きて、こんな風に最後を決められるようにと思います。家族がそうさせてくれることが、一番に望みたいです。

死は日常化する。敗北ではない。私も、じいちゃんも父も家で見送りました。最後のゴールのゴールする姿を私に伝えてくれたことにありがとうと言いたい。私もそうしたいな。

このような映画の上映や講演があっても、介護真っ盛りの方は、なかなか参加できないようにも思います。多くの方が、最期の過ごし方を考え、正解がないため、参考になる最期の生き方、介護のあり方を知りたいと思っておられると思うので、今回のような取り組みを継続してほしいです。

自宅もありなんだ、とか、病院、治療以外の選択肢がある事を知ることがまず大事で、それが叶うにはどうしたら良いのか、考えていきたい

温かい時間でした。死を当たり前に語り合える世の中であるべき。家族だけでなく地域で支えあえる世の中になって欲しいです。

親の介護と自分の仕事、育児が重なる人が多くなっていると思う。自宅で看取りたくても、働きざかり、共働きの場合、現実的では無いと思ってしまう。そこをフォローしてくれる制度を知りたい。

不安になった時に、いつでもどこでも、相談できる場が欲しい。

訪問看護休日が1週間ほどあれば、旅立つ日がしっかりわかる。緩和ケアの充実。

とても映画の中の一言一言が胸にささりました。最後に自宅で家族に囲まれて、ありがとう幸せだったと手をにぎってお別れしたい。それが最高の幸せ。

差し支えなければ、これまでに看取りを経験されたことがありますか。

109 件の回答

